

虹をかける

笑顔でつながるみんなのたまり場

石井うたさん（桑野支部）

「この場所を、出会い、ふれあい、憩いの場として医療生協で大いに活用してほしい」と2016年8月にオープンした「cosse(こっせ)亀田」は今年で8年目になりました。代表の石井うたさん（桑野支部・支部長）にこれまでの歩みとそしてこれからのついて聞きました。

東京で仕事や家庭を築き40数年。実家の両親が亡くなり空き家状態だった家や土地を受け継ぎ、ふと老後を考えた時、「お金じゃないなあ。親からの遺産を有効利用しよう」と思ったうたさん。また、夫から「自分のやりたいことをやってみたら？」と後押しされ、3人の子ども達は独立していたこともあり単

身、郡山へ。「両親が地域でお世話になったから地域に還元したい」と人々の居場所づくりのため実家を建て替えました。その思いは東京の民医連でヘルパーやケアマネージャー、事務職で働いていた時に介護保険制度外で、『自分らしく生きるために通える場があったら良いなあ』と感じていたからです。また、ヘルパーをしていた時「人に対して支えたり援助したりするのは自分に合っている、天職かな」と感じたそうです。「人との関わりでは感動がある。感動って大事!! お互いに感動を味わいたい」と居場所づくりに奔走しました。

「初め、町内会は反応がなかったりで人が集まるかどう

か心配だったけど、医療生協とのつながりやいろいろな呼びかけや企画を行い、人との関わりが増え集まってくれている「相手の方がいろいろと話してくれた時、やって良かった」と嬉しそうに話そうたさん。今は朝どり野菜直売、いきいき百歳体操、憲法カフェ、縁食の会、クラフトバンド、編み物教室など生協組合員の通いの場やグループ活動の場として大いに活用されています。『ここがあるから元気になる』とみんなの声。情報としてcosse亀田からの通信『笑顔でつながるみんなの居場所』は今年2月でNo.91まで発行、うたさんの思いがあふれる内容です。

cosse亀田はおおらかに包み込む包容力のある



住宅建築として「ふくしま住宅建築賞 最優秀賞」を受賞しました。施主のうたさんも同様に包容力のある存在でみんなの思いを受けとめてくれています。今後、cosse亀田は自分の住まいも兼ねているので、みんなが気にせず集まれるよう独立した施設を建てたい、また、グループリビングやシェアハウスができると良いなあと、前を向き進んでいく夢いっぱい、魅力いっぱいのおうたさんです。

（星野、國分）

cosse(こっせ)...

福島方言でおいでの意味